

吉田統括監だより

第9号

町民の皆さま、こんにちは。立春の季節となり、すっかり春めいて参りました。

2月と言えば、東北では冬真っ盛りで、春？どこに？という感覚でしたが、こちらに住んで、随所に『立春』を感じながら生活出来ており、生活環境の素晴らしさにただただ驚きの日々です。

さて、本号では錦江町総合戦略の『仲間づくり』について、町民の皆さまに紹介・説明します。

錦江町総合戦略改訂版における『取り組み』について（5回目）

先月号では5つの戦術のうち2つ目の『仕事づくり』について解説しましたが、本号では3つ目の戦術である『仲間づくり』を紹介します。

なお、総合戦略そのままの表現では非常に分かりにくいので、簡潔平易な表現に努めると共に町民の皆さまにとって重要だと考えられる内容を抜粋して紹介します。

また、今回は、町民の皆さまにとって、最も関心の高いことから、『仲間づくり』を特集すると同時に、『耳の痛い話』もさせていただきます。

町民全てが共有する『課題』を解決する為には、深刻な状況をご理解いただき、共に活動くださることを切にお願いします。

1) 『仲間づくり』について

『仲間づくり』戦術を簡潔に表現すると、次のようなことです。

- ① 移住者を増やす → 錦江町に『住み』、町民や町に良い影響を与えてくれる方を増やすこと。
- ② 回帰者を増やす → 町出身者で町の将来性に可能性を感じて『回帰』してくれる方を増やすこと。
- ③ 支援者を増やす → 錦江町を強力に『応援』してくれる方を増やすこと。
- ④ 投資者を増やす → 錦江町に対して積極的に『投資』してくれる方を増やすこと。

2) 錦江町に住んでもらえるよう、積極的に誘致する対象の方

次のような考え方で、『仲間づくり』に取り組みます。

- ① 錦江町内で雇用や経済効果を創出できるような『仕事』を町内に持ち込んでくれる方
農業・福祉・公共サービス以外には産業が少ない状況ですので、光回線とコンピューターさえあれば世界中を相手にどこでもビジネスが出来、町内経済にも好影響を与えられ、子供達の憧れとなり得る『優秀な』方々を積極的に誘致し、錦江町の新産業の『核』となっていただきます。
やがてこのことが、町内の若者の町外流出を『緩和』する手段になり得ると考えています。
- ② 錦江町の主産業である『農業』をビジネスと捉えて積極的に取り組む方
平成27年度で生産高91億と、全国的にも健闘をしている当町農業の未来を担える若年層や女性層に対して、積極的にビジネス型就農へと結びつけます。
但し、このことは『働き手』では無く、『担い手＝農業経営者』を中心に誘致するものです。
- ③ 後継者がいない事業者の『既存事業+新たな発想』切り口で『後継者』になってくれる方
有望な事業にもかかわらず、後継者がいないが故に廃業せざるを得ない事業者に対して積極的に町内外の若者を結び付けられるよう働きかけを行います。
特に、光回線によるインターネット社会の今、これまでに無い発想で成功したビジネス事例がいくつも出ています。